

## 「定年後の夫婦 2 人の暮らし方調査」について

2012 年 11 月 6 日

株式会社住環境研究所

積水化学工業株式会社住宅カンパニー（プレジデント:高下貞二）の調査研究機関である株式会社住環境研究所（所長:倉片恒治）は、このほど「定年後の夫婦 2 人の暮らし方（シングルミックス）調査」を実施しました。“シングルミックス”とは、当研究所が提唱する定年後の夫婦 2 人が仲良く快適に暮らせる住まい方。夫婦がそれぞれ自立しつつ、互いの個を尊重しあう「シングル（自立）」の暮らしと、夫婦が適度な距離感でコミュニケーションする「ミックス（共生）」の生活を共存させる老後の夫婦 2 人の住まい方です。

人生 100 年時代を迎えた今、人生のライフサイクルを 25 年周期で考えると 51～75 才は第 3 周期。高齢社会が進展し、今や 60 代以上が人口のボリューム層です。その第 3 周期の夫婦 2 人の暮らし方の意識意向を探りました。

### ■調査結果のポイント

#### 1. ひとりの時間を大切に、自立した暮らしを望む

“夫婦といえども 1 人の時間がほしい、それでこそ仲良く暮らせる”という考え方を支持するのは約 6 割（59%）。女性は 74% が支持しています。

#### 2. 男性は家事に勤しみ、家庭での役割をはたそうと努力

退職に伴う日常生活の変化で時間や頻度が増えたのは「家事」、「テレビを見る」、「家庭内での生活を楽しむ」で、中でも大きな変化は男性の「家事への参加」です。また、時間や頻度が減ったと答えた方では「仕事以外の外出」や「読書の時間」が上位。

#### 3. 女性に比べて男性は社会・友人との交流意識がやや低く、逆に女性は外に目が向く

女性は「友人との交流」は積極的に、「社会との接点」も継続を望んでいるのに対して、男性は女性に比べ「社会との接点」や「友人との積極交流」意識はやや低くなっています。

#### 4. 男女とも自分専用の空間として「趣味室」を希望

実際にある専用空間としては、男性は「書斎・仕事室」35%。女性は「くつろぎの部屋」27%、「趣味室」25%と自分専用はあっても 3 割程度。欲しい専用空間としては男女とも「趣味室」が第 1 位となっています。

#### 5. 体が弱ったら助け合い、共有の時間を多く持ちたい

体が弱った時の夫婦の意識では、現実の夫婦意識に比べ「お互い助け合い共有の時間を多く持ちたい」が増加。高齢になると寄り添う生活を望んでいます。

<シングルミックスサイト（11 月 7 日オープン）>

<http://singlemix.jp/>

<この件に関するお問い合わせは下記までお願いします>

住環境研究所 市場調査室 嘉規（かき） TEL. 03-3256-7571

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1 神田須田町スクエアビル 8F

## 調査概要

調査目的：中高齢夫婦 2 人に対して、定年後の暮らしと住まいについて、夫婦意識や生活意識にスポットを当て、住まいに望むことを把握

調査手法：インターネット調査

調査時期：2012 年 7 月

調査対象：55 才以上の男女

有効回答：1247 件（男性 66%、女性 34%）

※グラフの数字は全てパーセンテージ（%）

## 回答者の属性

年齢：55～59 才 50%、60 才以上 50%

就業状況：就業 57%、無職 43%

年収：200 万円未満 10%、200 万～600 万円未満 43%、600 万～1,000 万円未満 20%、1,000 万円以上 11%

住居形態：持家 84%（戸建て 64%、マンション 20%）、賃貸 10%、その他 7%

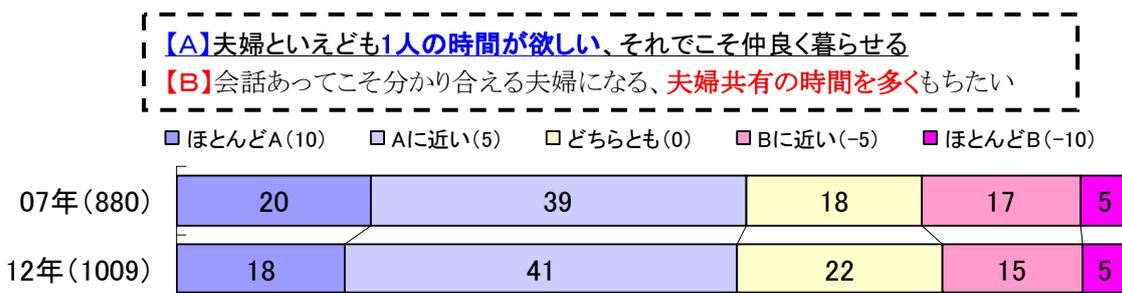
## 調査結果の概要

### 1. ひとりの時間を大切に、自立した暮らしを望む

#### ①夫婦の意識

「夫婦といえども 1 人の時間が欲しい、それでこそ仲良く暮らせる（A）」については、「ほとんど A」18%、「A に近い」41%で、合わせて 59%が考え方を支持しています。2007 年との比較で見ると割合に変化はなく、この年代では当たり前の意識として定着している様子が伺えます。

#### 【夫婦の意識 07-12 年比較】

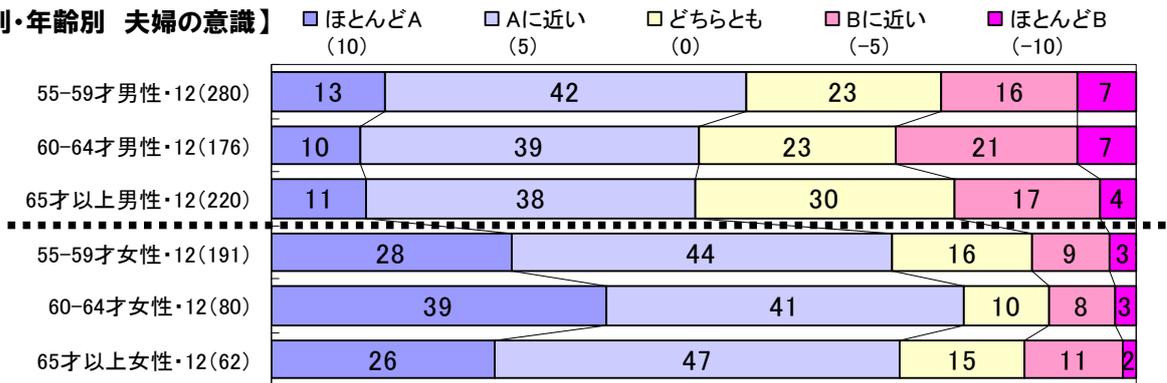


男女別に見ると、「ほとんどA」、「Aに近い」は男性 52%に対し、女性は 74%。女性の方が個々の時間を大切にするのが高いのが特徴。中でも 60～64 才女性は 80%（55～59 才 72%、65 才以上 78%）を占めます。

#### 【男女別 夫婦の意識】



【性別・年齢別 夫婦の意識】



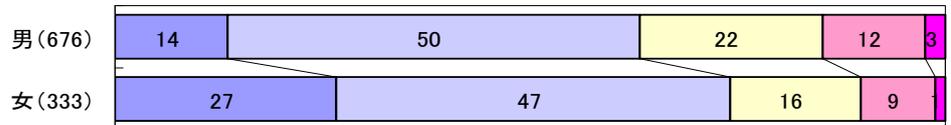
②趣味について

趣味については、「別々に」それぞれ好きなことをしたいというのが男性69%、女性74%と多く、男女とも趣味は別々に考えている方が多いようです。

【趣味について全体】



【趣味・男女別】

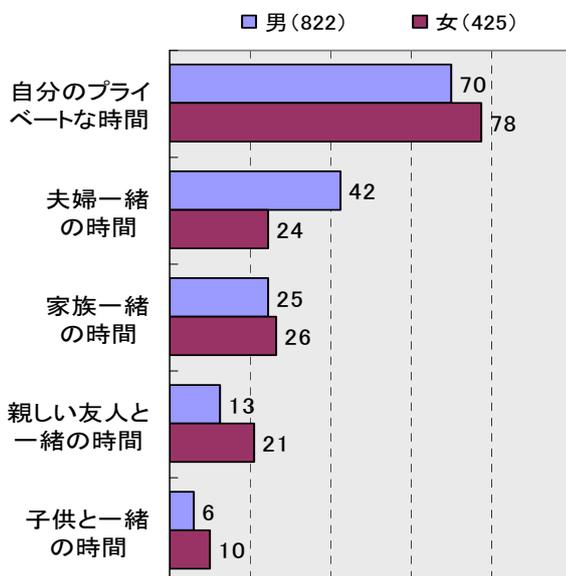


③充実させたい時間

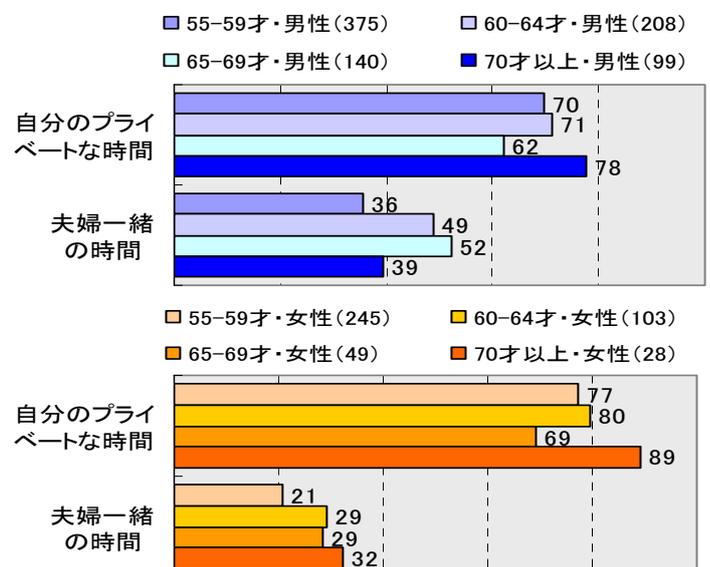
充実させたい時間は男女とも「プライベートな時間」で、70%以上の人が望んでいます。「夫婦一緒の時間」は男性が高く42%（女性24%）、「友人との時間」は女性が高く21%（男性13%）となっています。

年齢・性別では60代男性で「夫婦一緒の時間」を望み、50代女性では「夫婦一緒の時間」は低いものの高齢になるにつれ増加する傾向にあります。

【性別 充実させたい時間】（複数回答）



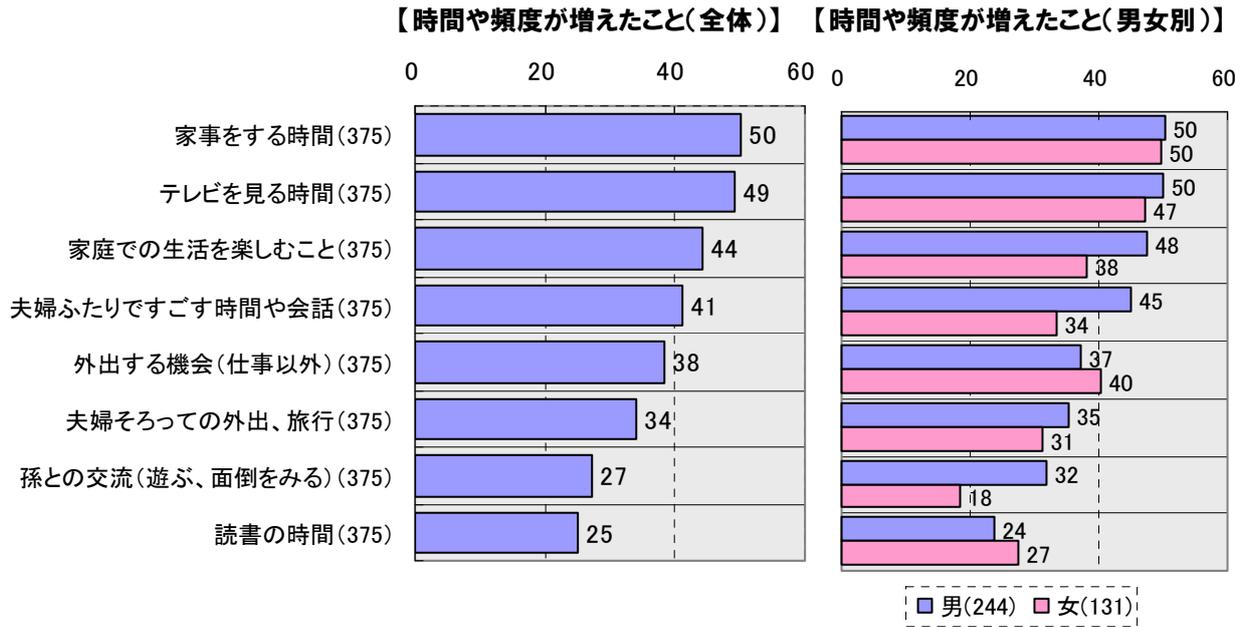
【性別・年齢別 充実させたい時間】（複数回答）



## 2. 男性は家事に勤しみ、家庭での役割をはたそうと努力

### ①退職者\*の日常生活の変化(時間や頻度が増えたこと)

日常生活の変化で時間や頻度が増えたのは、「家事をする時間」50%、「テレビを見る時間」49%、「家庭内での生活を楽しむ」44%。男性は「テレビを見る」50%、「家庭内での生活を楽しむ」48%、「夫婦ふたりで過ごす時間や会話など」45%、「孫の面倒を見る・遊ぶ」32%。女性では「外出する時間」40%、「読書の時間」27%など。家事の時間は男女とも5割が増えたとしています。

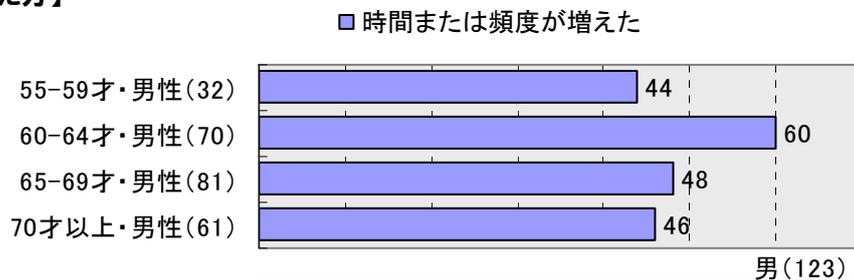


※退職者:以前は就業していて、現在無職の方

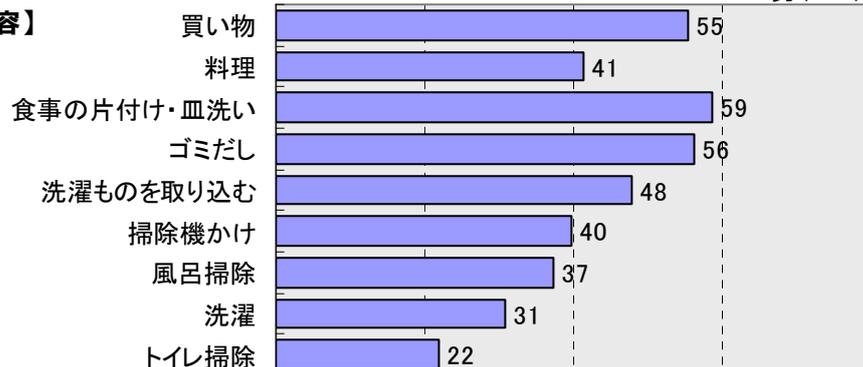
### ②増えた家事について

特に家事が増えたのは男性の60-64才(60%)。増えた家事内容は、男性では「食事の片付け」59%、「ごみ出し」56%、「買い物」55%、「洗濯物を取り込む」48%など。定年直後の男性では、在宅時間が増えたことで家庭内における役割を果たそうとしている様子が伺えます。

#### 【男性 男性 家事増えた方】



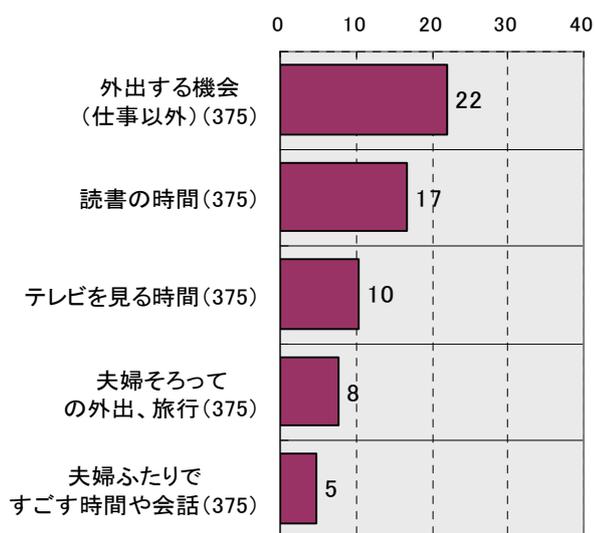
#### 【男性 増えた家事内容】



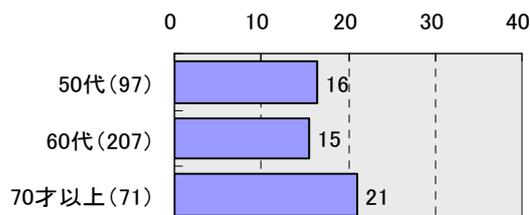
### ③日常生活の変化(時間や頻度が減ったこと)

時間や頻度が減ったと答えた方では「仕事以外の外出」や「読書の時間」が上位となっています。仕事以外の外出が減ったのは、経済的理由から。また読書の時間は、70才以上の減少が目立っています。

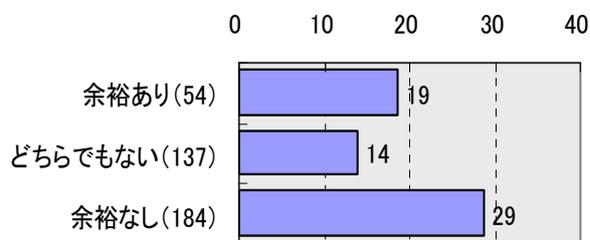
【時間や頻度が減ったこと(全体)】



■読書の時間が減った(年齢別)



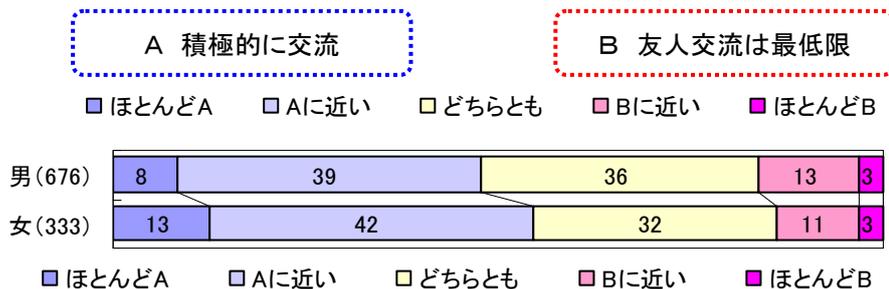
■外出する機会が減った(経済的余裕の有無別)



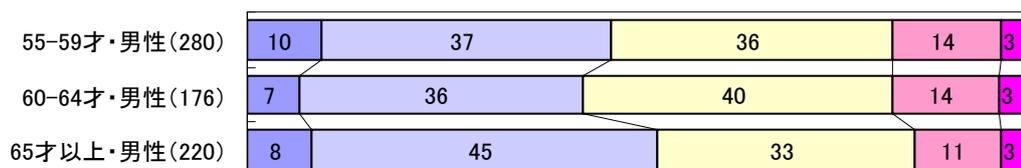
## 3. 女性に比べて男性は社会・友人との交流意識がやや低く、逆に女性は外に目が向く

### ①友人交流について

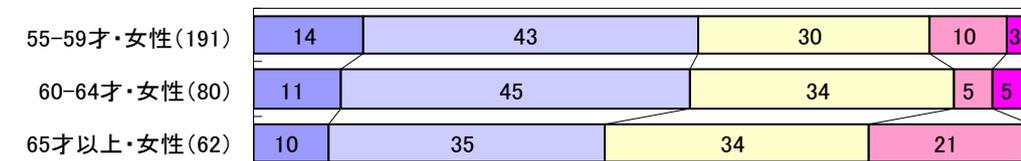
定年を迎えた男性(60~64才)は「友人と積極的に交流したい(ほとんどA、Aに近い)」が一時的に43%に減少するも、65才以上では53%に上昇。一方、交流意識が高い女性も65才以上では積極交流派が45%に低下しています。女性では介護などが始まることが影響していると考えられます。



#### 【男性・年齢】

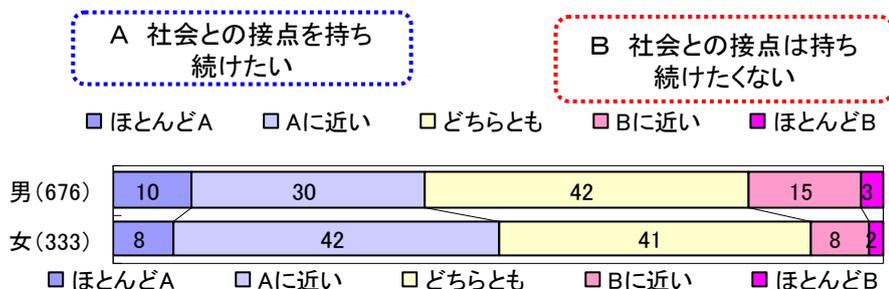


#### 【女性・年齢】

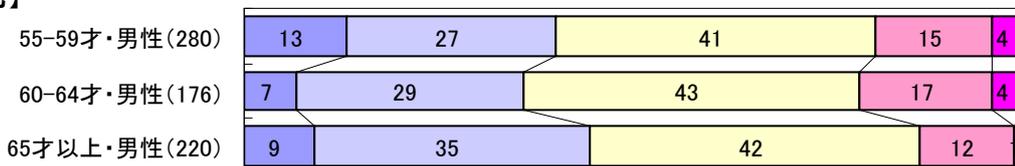


## ②社会との接点

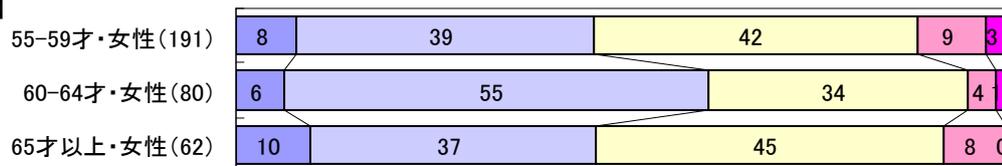
社会との接点継続意識は、男性で継続意識は40%、女性で50%と女性の方が社会との接点継続意識が高く、特に定年直後男性（60～64才）は、社会との接点継続の意識が低くなっています。逆に同年代（60～64才）女性は外に目が向くなど、男女で差が生じています。



### 【男性・年齢変化】



### 【女性・年齢変化】

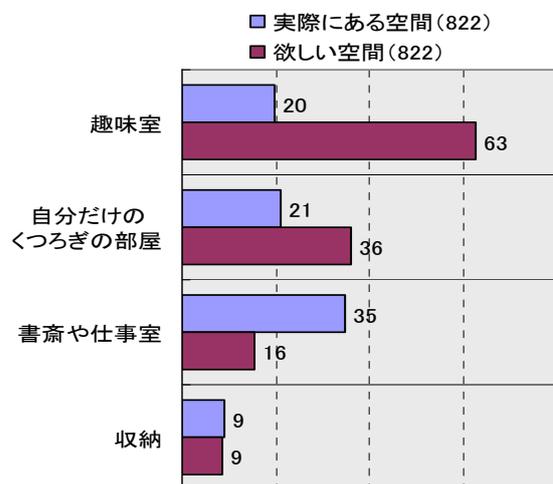


## 4. 男女とも自分専用の空間として「趣味室」を希望

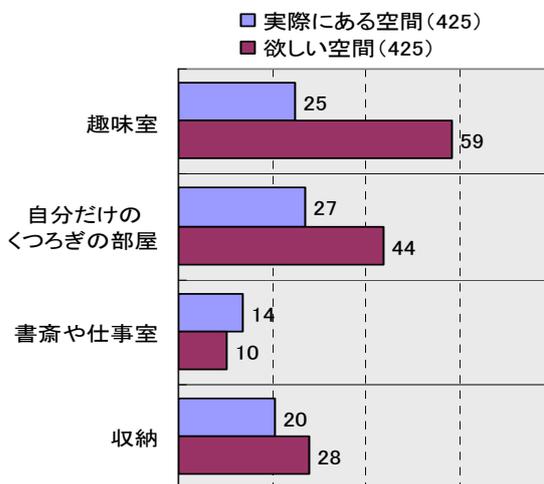
実際にある専用空間は、男性では「書斎や仕事部屋」が35%。趣味やくつろぎの空間の実現率は2割程度。女性では「自分だけのくつろぎの部屋」27%、「趣味室」25%で専用空間の実現率は低いのが現実です。

欲しい空間は、男性「趣味室」63%「自分だけのくつろぎ空間」36%。女性で「趣味室」59%、「くつろぎの部屋」44%。男女とも現在無い「個の空間（趣味やつくりろぎなど）」を希望し、特に「趣味室」を欲しています。

### 【男性の実際にある空間と欲しい空間】



### 【女性の実際にある空間と欲しい空間】

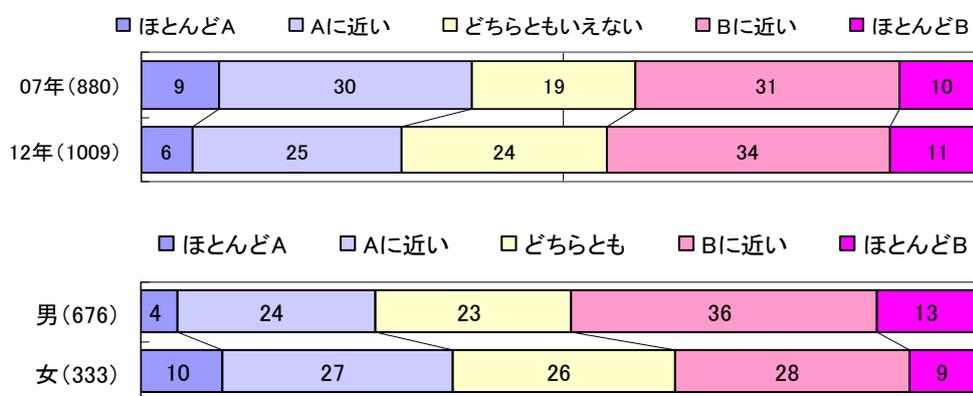


## 5. 体が弱ったら助け合い、共有の時間を多く持ちたい

将来、体が弱った時の夫婦意識を聞くと、「体が弱っても個を尊重し自分のペースを守りたい 31%」、「弱ったらお互いで助け合い共有の時間を多く持ちたいが 44%」、07年調査に比べ、助け合い共有の時間を多く持ちたい方が増加しています。夫婦意識も年をとるに従って“自分のペースを守る”から“助け合い共有”へ変化することが伺えます。

**【A】体が弱っても「個」を尊重し、夫婦であっても、比較的自分のペースを守って暮らしたい**

**【B】体が弱ったら、夫婦でお互いを助け合い、共有の時間を多く持って暮らしたい**



### <シングルミックスサイトをオープン>

・住環境研究所では、シングルミックスな暮らしを提案するために「シングルミックスサイト」を2012年11月7日よりオープンします。

URL: <http://singlemix.jp>

公開: 2012年11月7日